



就労移行支援事業

R5年1月 書初め大会



みんなの書



今年も書初めをしました。今年目標や好きな物、好きな言葉など自由に書きました。久しぶりに筆を持った！という方がほとんどでしたが、素晴らしい作品がたくさん出来ました。



支援学校卒業生のご紹介

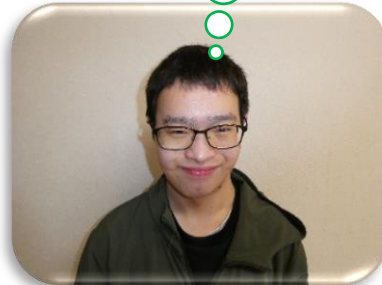
今年度は新たに3名の方を迎え、スタートしました。社会人1年目！3名の方の抱負を紹介します。



- ・無病息災
- ・就職できるように集中して取り組む
- ・体力をつける



- ・指示されたことをしっかり守って行動する。
- ・集中して取り組み、臨機応変に動けるようにする。



・様々な人とコミュニケーションを取ることを頑張りたい。



就労継続支援B型事業



【祝 成人 おめでとうございます！】

今年は移行から1名、B型から1名の方が成人を迎えました。成人を迎えた決意を表明していただきました！

施設外の仕事も中の仕事も頑張って、移行に行けるような体力をつけたいです。 F.Y



決意表明！

- ・報告をしっかりとる。
- ・時間内に終わらせる。
- ・ゆっくり丁寧に仕事をする。 N.Y



記念品贈呈

【2月:節分】

 「みんなが健康で幸せに過ごせますように」という思いを込めて、豆まきをしました。

大平さん作「最強鬼」



鬼は～外！福は～内！



〇〇〇自主製品販売バザー〇〇〇

1・2・3月は、福祉のお店、国府子どもフェスタでバザーを出店させていただきました。見に来て頂いた方々、ありがとうございました！

今年度、高山市役所で開催される福祉のお店は、7月27日(木)、11月22日(木)、3月19日(火)の3回を予定しています。

5月21日(日)に高山別院で開催される『ののさまマルシェ』に出店する予定ですので、ぜひお越しください！



福祉のお店の様子

【新しい仲間が増えました！】

この春支援学校を卒業し、青空作業所に来てくれました。これからよろしくお願いします！



色々な作業を集中して頑張りたいです！他の利用者さんと仲良くして、楽しく過ごしたいです。 A.H

◇ご案内◇

現在、青空作業所で作っている自主製品を置かせていただいているお店をご紹介します。「道の駅なぎさ」「産直市場菜々ちゃん」「レストハウスしぶき」「まつりの森」「A-Z」です。お立ち寄りの際は、ぜひ手に取っててください！自主製品の注文がありましたら、ご連絡をいただければ、お届けいたします！



お礼

二村友奈さんのご家族からタオルの寄付をいただきました

窪田哲様からタオルの寄付をいただきました

尾崎美羽さんのご家族からタオルの寄付をいただきました

野首優さんのご家族から、タオル、洗剤、災害用品の寄付をいただきました

植木朝子様からタオルの寄付をいただきました

法人の活動に活用させていただきます。大変にありがとうございました。
今後とも、どうか末永いお力添えを頂きますよう宜しくお願いいたします。



ネットワーク支援とは

柏木 真司

今回は私が勤務していた岡山県で就労支援ネットワークを構築したお話をしました。職業リハビリテーションに限らず、あらゆる福祉の分野で当たり前となったネットワークによる支援ですが、連携で陥りがちな問題が、「たらいまわし」と「他力本願」です。連携の意味をはきちがえ、他の機関へ丸投げしてしまうことがあります。連携とは「つなぐ」ことです。そしてつないで終わりではなく、一緒に支援し続けるスタンスが大切です。当事者を中心に多くの支援機関が輪となって共に連携し支えていくのが本当のネットワーク支援です。

そしてネットワークを構成する支援機関はあくまで対等の関係であり、どこかの機関が優位な立場で仕切ることは望ましくありません。ネットワークの組織がヒエラルキー構造になってしまうと、誰かがやってくれるだろうといった他力本願になり、指示がないと動かないといった受け身の姿勢になってしまいます。

その他ネットワーク支援で留意したいことは、他の支援機関を批判し否定しないことです。それぞれの機関には得意なことと苦手なことがあります。まずは共に連携する機関は何ができて、何ができないのかを知ることが必要です。そして得意なこと、できることを担っていただき、より良いサービスを提供し、支援効果を上げることが大切です。

ネットワーク支援のメリットは、当事者にとっては、多くの支援機関が関わることでより良いサービスが受けられること。支援者にとっては、業務の負担軽減につながることです。

しかしながらメリットが大きいにもかかわらず連携が進まない現状があります。その理由として考えられるのは、各機関の支援者同士の顔が見えないことだと思えます。まずは支援者同士が顔を合わせる、お互いの信頼関係を作るところからネットワーク支援は始まると思えます。



(第7回 終)

青空通信

NPO 法人 ウェルコミュニティ飛騨 青空作業所

高山市山口町 1297-1 0577-35-1559

<https://www.welcom-aozora.com/>

令和5年 4月 14日発行 第56号

理事長挨拶

柏木真司

ここ飛騨にも待ちに待った春が到来しました。日頃より、ウェルコミュニティ飛騨青空作業所の活動に対し、ご理解とご支援を賜り深く感謝申し上げます。

この時期は心躍る一方で、取り巻く生活環境が何かと変化し落ち着かない状況になりがちです。そして長い間、生活全般に制限がかけられたコロナ対策については、マスクの着用が個人の判断に任されるようになるなど、再び生活様式の変化への対応が求められています。青空作業所のご利用者が社会や生活の変化にもスムーズに適応できるよう支援してまいります。

さて、新聞等で報道されご存じの方も多いかと思いますが、農園型障害者雇用代行ビジネスについて、皆さんはどのようなご意見をお持ちでしょうか。一般的には否定的な意見が多い中、ご家族の一部には子供が負担を負わず、お給料がもらえることに感謝する声が上がっています。私はこの件に関しては、障がい者雇用のあり方を再考する機会と捉えています。

このようなビジネスが成立している背景には、これまで障がい者雇用を促進してきた障害者雇用率制度があります。民間企業の法定雇用率は来年4月には現行の2.3%から2.5%(令和8年6月30日までの経過措置)になることが決まっています。企業は雇用率達成のため代行ビジネスを利用し、雇用された障がい者は給料を得る。ある意味ウイン・ウインの関係が成立しているように見えます。

では企業は、障がい者は雇用され給料が得られれば良いと考えているのでしょうか。そうであるならば、雇用率未達成企業が納める納付金と代行サービスに支払う経費をそのまま障がい者に給与として直接支給すれば済む話です。障がい者雇用は社会的責任と話す企業があります。私はこの考え方にも疑問があります。障がい者雇用の本質は、経済的自立のみではなく、働くことにより社会貢献を果たし、社会の一員として生きる喜びを実感できるようにしていくことだと思えます。

